

京都御猟場の御猟と射手

東 昇

1 「御猟獲物一覧表」と「往復綴」

宮内省の京都御猟場は、明治38年(1905)～大正12年(1923)の19年間設置された。ここで行われた御猟とその射手について概要をみていきたい。京都の北、雲ヶ畑(現京都市北区)にあった京都御猟場に関して、これまで波多野六之丞家文書の調査・研究を通じて、御猟場を統括した波多野富之助監守長の事績、御猟写真についてまとめている¹⁾。

今回、翻刻・掲載した「御猟獲物一覧表日記綴」(波多野六之丞家文書12-239)、「往復綴」(同12-238)は、御猟場文書の一つである。まず「御猟獲物一覧表」は、猟日別の鹿・猪の捕獲頭数と射手(御猟場職員・犬以外)が記され、その基になった「御猟獲物一覧表日記」は大正2～4、8年の4年分の抜粋である。全期間の表では、猟日別にまとめているため、同じ射手が何頭捕獲しても1回と数えている。猟日に「-」があるのは基本的には休猟日である。備考には、休猟の理由や東西、南北軍に分かれて御猟をした事例、皇族の参加などが記される。日記には、獲物1頭ごとに、年月日、獲物種別、斤量、猟所、射手及猟犬、備考の項目があり、詳細が判明する。

つぎに「往復綴」は、現地の京都御猟場の

監守長と宮内省主猟寮、監守や見回などの御猟場職員、その他京都府や愛宕郡、警察署など、各方面との往復した文書を綴じた簿冊である。この「往復綴」は「甲一号」とあるように、京都御猟場開始期のもので、期間は明治38年10月から同41年11月20日と表紙に記される。「往復綴」に綴じられた文書別に年月日、差出・宛所、内容の件名目録を収録した。「往復綴」は、辞令や給与の領収書、鳥獣棲息や獣害・斃獣・密猟者の報告、水力発電の水路や鉱山の掘削などへの対応関係の文書が多くを占める。

2 猟日と捕獲数の変化

御猟については、監守長の日記や手帳、「御猟獲物一覧表」などから判明する。「御猟獲物一覧表」をまとめると、京都御猟場では、御猟は毎年1月に実施されており、例外として明治39年3月に御猟、大正10年3月、大正11年2月には有害獣駆除猟が行われている。日数は、19年間に168日、一年あたり平均8日間となる。開設直後の明治39年は2日であったが、年々増加し大正2年には14日間、大正7年に10日と減るが、大正10年には最大の15日となる。期間はほぼ2週間であり、獲物が多い御猟場の特徴かと考えられる。

捕獲数の全期間の合計は、猪 716、鹿 827、計 1543 頭、一年あたり平均 81 頭である（表 1）。これも日数の増加に伴い変化するが、大正 7 年を境に減少する。波多野富之助監守長の息子波多野周蔵が、この大正 7 年の御猟では 1 日平均 20 頭も獲ったことに対し、「或大將が雲ヶ畑の御猟場は世界一だといわれたのもむべなる哉」と語ったと記しており、獲物が多い御猟場という認識があったと考えられる²。

3 射手と御猟参加者

「御猟獲物一覧表」の射手は、獲物を捕獲した人物であり、業務として従事する宮内省の主猟官・職員をはじめ、陪猟した皇族・軍人・華族・外賓や大使・公使、自治体の村長など、全体で 67 人、378 回にのぼる。このなかで、主猟官が 21 名、226 回と最も多く、特に伊達宗陳（旧宇和島藩主家）43 回、石川成秀（旧亀山藩主家）37 回と続く。宮内省職員は 24 人、77 回と 2 番目に多く、主猟寮の次長・属・事務官・技手・他御猟場職員、皇族の御附武官である。皇族は 2 名、朝香宮鳩彦王 8 回、北白川宮成久王 7 回、軍人は 7 名、陸軍の黒木為楨大將、尾野実信中将（福岡）、海軍の東郷平八郎大將、上村彦之丞大將、黒井悌次郎大將（山形）、樺山資紀大將と、尾野・黒井以外は鹿児島出身である。上記分類以外の華族は 6 名、徳川家達（旧徳川宗家）、徳川圀順（旧水戸家）、徳川慶久（徳川慶喜家）、徳川義親（旧尾張家）と徳川家が多い。外賓は、スペイン公使ボーゼカロー、ロシアの公爵ウイソーフの 2 名、大使・公使は大正 6 年の侯爵井上勝之助、鍋島桂次郎、自治体関係者は金辻與兵衛小野郷村長他 3 名である。

この射手は、獲物を捕獲した人物であり、この他に捕獲できなかった御猟参加者がいる。明治 41 年の射手は、貴志一郎主猟官と黒木為楨大將の 2 名であるが、参加者は「往復綴」

1 月 6 日監守長宛の主猟寮通達によると、米田虎雄主猟頭、貴志・伊達宗陳・鍋島精次郎・岡崎國良・藪篤磨・松平頼孝か頼和（名字のみ）・細川興生の主猟官 7 名、属 4 名、省丁 2 名の計 14 名である。この時期、主猟官は計 14 名、他に万里小路正秀・福羽逸人・織田信親・浅野長之・粟津義夫が就任しており、御猟には半分が参加している（表 2）。同様に射手ではない参加者として、明治 39 年 3 月イギリス王室のコンノート殿下の来日に関する外賓接待、大正 7 年 1 月梨本宮守正王の事例がある。

文末脚注

¹ 東昇「波多野富之助と近代雲ヶ畑 — 林業・御猟場・志明院 —」京都府立大学文化遺産叢書 19 『京都雲ヶ畑・波多野六之丞家文書調査報告』17-24 頁、2020 年、同「京都御猟場の御猟と写真資料」同 22 『あこのころの雲ヶ畑—雲ヶ畑写真資料調査報告』15-16 頁、2021 年。

² 「京都御猟場について」『雲峰時報』1968 年、雲ヶ畑自治振興会。

表 1 京都御猟場の年別捕獲数

年代	猪	鹿	計	日数
明治 39	3	4	7	2
明治 40	3	10	13	5
明治 41	5	10	15	8
明治 42	6	11	17	8
明治 43	9	18	27	10
明治 44	20	24	44	11
明治 45	36	27	63	10
大正 2	72	42	114	14
大正 3	66	41	107	14
大正 4	70	81	151	14
大正 5	67	59	126	14
大正 6	71	57	128	14
大正 7	124	71	195	10
大正 8	46	46	92	9
大正 9	33	91	124	11
大正 10	32	86	118	15
大正 11	26	76	102	13
大正 12	8	53	61	4

出典：「御猟獲物一覧表日記綴」（波多野六之丞家文書 12-239）

表2 京都御猟場期における宮内省主猟局・主猟寮の主要職員

年代	明治39	明治40	明治41	明治42	明治43	明治44	明治45
部署名	主猟局	主猟局	主猟寮	主猟寮	主猟寮	主猟寮	主猟寮
長・頭	戸田氏共	戸田氏共	米田虎雄	米田虎雄	米田虎雄	米田虎雄	米田虎雄
職種	長	長	頭	頭	頭	頭	頭
監守長	波多野富之助	波多野富之助	波多野富之助	波多野富之助	波多野富之助	波多野富之助	波多野富之助
等級	准6等	准6等	5等	5等	5等	4等	4等
監守	鴨井友次郎	鴨井友次郎	鴨井友次郎	鴨井友次郎	鴨井友次郎	鴨井友次郎	鴨井友次郎
主猟官数	14	12	13	15	15	15	15
主猟官	米田虎雄	米田虎雄					
	片岡利和						
	足立正聲						
	佐々木陽太郎	佐々木陽太郎					
	万里小路正秀	万里小路正秀	万里小路正秀	万里小路正秀	万里小路正秀	万里小路正秀	万里小路正秀
			福羽逸人	福羽逸人	福羽逸人	福羽逸人	福羽逸人
	貴志一郎	貴志一郎	貴志一郎	貴志一郎			
	織田信親	織田信親	織田信親	織田信親	織田信親	織田信親	織田信親
	小原駿吉	小原駿吉					
				大迫貞武	大迫貞武	大迫貞武	大迫貞武
	伊達宗陳	伊達宗陳	伊達宗陳	伊達宗陳	伊達宗陳	伊達宗陳	伊達宗陳
	鍋島精次郎	鍋島精次郎	鍋島精次郎	鍋島精次郎	鍋島精次郎	鍋島精次郎	鍋島精次郎
	松平頼親	松平頼親					
			松平頼和	松平頼和	松平頼和	松平頼和	
			浅野長之	浅野長之	浅野長之	浅野長之	浅野長之
	岡崎國良	岡崎國良	岡崎國良	岡崎國良	岡崎國良	岡崎國良	岡崎國良
	藪篤麿	藪篤麿	藪篤麿	藪篤麿	藪篤麿	藪篤麿	藪篤麿
				蜂須賀正韶	蜂須賀正韶	蜂須賀正韶	蜂須賀正韶
	松平頼孝	松平頼孝	松平頼孝	松平頼孝	松平頼孝	松平頼孝	松平頼孝
			細川興生	細川興生	細川興生	細川興生	細川興生
		栗津義夫	栗津義夫	栗津義夫	栗津義夫	栗津義夫	
				保科正昭	保科正昭	保科正昭	
						伊東太郎	

年代	大正2	大正3	大正4	大正5	大正6	大正7	大正8	大正11
部署名	主猟寮	主猟寮	主猟寮	主猟寮	主猟寮	主猟寮	主猟寮	式部職
長・頭	米田虎雄	米田虎雄	米田虎雄	戸田氏共	戸田氏共	戸田氏共	戸田氏共	
職種	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	
監守長	波多野富之助	波多野富之助	波多野富之助	波多野富之助	波多野富之助	波多野富之助	波多野富之助	波多野富之助
等級	4等	3等	3等	3等	3等	3等	3等	
監守	鴨井友次郎	鴨井友次郎	鴨井友次郎	鴨井友次郎	鴨井友次郎	鴨井友次郎	鴨井友次郎	鴨井友次郎
主猟官数	14	13	15	13	15	15	15	10
主猟官	織田信親	織田信親	織田信親	織田信親	織田信親	織田信親	織田信親	
	大迫貞武	大迫貞武	大迫貞武	大迫貞武	大迫貞武	大迫貞武	大迫貞武	
	坂本俊健	坂本俊健	坂本俊健	坂本俊健	坂本俊健			
	伊達宗陳	伊達宗陳	伊達宗陳	伊達宗陳	伊達宗陳	伊達宗陳	伊達宗陳	
	鍋島精次郎	鍋島精次郎		鍋島精次郎	鍋島精次郎	鍋島精次郎	鍋島精次郎	
	浅野長之	浅野長之	浅野長之					
	藪篤麿							
	蜂須賀正韶	蜂須賀正韶	蜂須賀正韶					
		執行友次	執行友次					
	細川興生	細川興生	細川興生	細川興生	細川興生	細川興生	細川興生	細川興生
	栗津義夫	栗津義夫	栗津義夫	栗津義夫	栗津義夫	栗津義夫	栗津義夫	
	保科正昭	保科正昭						
	亀井茲常							
			川上素一	川上素一	川上素一	川上素一	川上素一	
	伊東太郎	伊東太郎	伊東太郎	伊東太郎	伊東太郎	伊東太郎	伊東太郎	伊東太郎
					井上虎	井上虎	井上虎	
					山口豊男	山口豊男	山口豊男	
	石川成秀	石川成秀	石川成秀	石川成秀	石川成秀	石川成秀	石川成秀	石川成秀
			鍋島直庸	鍋島直庸	鍋島直庸	鍋島直庸	鍋島直庸	
			酒井忠克	酒井忠克	酒井忠克	酒井忠克	酒井忠克	酒井忠克
			坊城俊良	坊城俊良	坊城俊良	坊城俊良	坊城俊良	坊城俊良
						西郷従志	西郷従志	西郷従志
							島津忠弘	
							徳川義親	
							黒田長禮	
							東郷彪	